

間違いだらけの

論客選び

2010年代
「日本社会論」の
計量テキスト分析

後藤和智
(後藤和智事務所 OffLine)

間違いだらけの 論客選び

2010年代「日本社会論」の
計量テキスト分析

後藤和智（後藤和智事務所 OffLine）

2016年12月29日（コミックマーケット91）

注意

1. 本書で使用したテキストデータは元の書籍を著者自らがデータ化したものです。
2. 本書を著作権法の定める私的使用の範囲外で公開などを行うことを禁じます。また、本書の使用により生じた問題についての責任は負いかねます。

まえがき——腐りきった論壇にカタログをぶつける

61冊目の同人誌となります、後藤和智です。まず最初に叫ばせてください。

我が国の論壇は腐っている！！

……と。

何言ってるんだこいつ、と思った方、あなたは正しい。とはいえちよつと話を聞いていただきたく。ここ数年の私は、我が国の「論壇」というものに絶望しきっています。弊サークルの同人誌を読まれている方は、私が評論と東方Projectを中心に活動していることはわかっていると思います。いずれのジャンルでも「評論」という分野で活動していますが（東方は評論も盛んで、2012年には東方の考察や評論に関する合同誌が出されているだけでなく、2014年から東方の「情報・評論」オンラインイベントさえ行われています）、評論ジャンルでの評論活動を行うことにどのような意義があるのか、ということ、ここ5年くらいは考えるようになっていきます。

元々私は若者論関係のブログを書いており、各所のご協力もあって商業出版ができたこともありますが、若者をめぐる言説やその環境には、特に商業出版以降はいろいろと欺瞞的なものを感じるようになっていました。まず2000年代の終わり頃から、若者論界隈の一部の論客は、宮台真司や東浩紀などの言説をありがたがって縮小再生産して、若い世代の実態とも、科学的な考え方や方法からかけ離れた議論をするようになり、マスコミでもそういうものがもてはやされてきた。そういった傾向に対する違和感を表明したのもとして『おまえが若者を語るな!』（角川Oneテーマ21、2008年）があるのですが、そのような状況は、改善されるどころか、むしろ進行していると思います。

1990年代後半から2000年代まで続いた劣化言説の時代の中心を担った若者論は、読者層と若年層の「違い」を書き立て、「若者」的なものを劣つたものとして描き、叩くというものでした。そしてその時代には、あらゆる論者が「若者」について語り、また「若者」の「劣化」を書き立てればいっばしの論客として見てもらえるようになる、という状況が生まれていたのです。「若者」を「炭鉱のカナリア」と錯覚し、「若者」の「変化」や「劣化」にこそ新しい時代の特徴や問題点があるという妄想にとらわれ、「若者」を語るものが「現代社会」そして「未来」を語るものとして重宝された。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

2016年には「post-truth」という言葉が俄に注目を集めました。少なくとも若者論の世界では10年以上前から post-truth でした。しかし、ここ数年の我が国の「言論」の状況を見ると、言論全体が「若者論」化していると言ってしまうかと思えます。かつて自分を飾り立てるための道具として使われた「若者」は、2011年の東日本大震災においては「原発」や「2012年までの」民主党政権」「2013年頃の」自民党政権」になり、今は「左派」「リベラル」「インテリ」になっています。いずれも、それらを語ることで、いかにいい加減であってもいっばしの「論客」扱いしてもらえないものですね。流行のトピックが次々と変わり、その分野でしか活躍できないはずの（場合によってはその分野ですら活躍できないはずの）簡単にできあがった「論客」が社会のあらゆることに口を出すようになる——そのような悪夢が続いてきたのです。

もう一つ懸念しているのは、「評論」を悪用した暴力の肯定、差別の肯定という事態がまかり通っていることです。主にツイッター上の「左派」を叩く論客は、一部の反レイシズム運動家がオタク叩きを行っていることや暴力行為に走っていることをもって、反差別などに取り組み動き全体を嘲笑するという行為を行っていることが目立ちます。かれらは「自分はおかしい人間を叩いているだけで、たまたまそれが左派ばかりだったのだ」と言うことが多いですが、実際には「左派の問題点」を指摘するそぶりを見せることで、差別が引き起こす問題を考えることを放棄していると思えません。

いまや「言論」は思考のためのツールではなく、思考停止のためのツールに成り下がっています。仲間内だけで通じる正当性を互いに確認するためのものです。2000年代の終わりに「論座」（朝日新聞社、朝日新聞出版）や「諸君」（文藝春秋）といった、ある程度方向性や特徴のある言論雑誌が休刊し（一部はウェブに移転したが、基本的に会員制であることが多い）、『WILL』（WAC）や『JAPANEISM』（青林堂）などといった保守系というよりは右派系の雑誌が相次いで生まれました（『WILL』は編集部内でのお家騒動を経て看板編集長が脱退、その編集長が『月刊Handa』（飛鳥新社）という雑誌を別会社で創刊した）。他方で左派系では、右派系のような雑誌の刊行ラッシュこそないものの、内田樹や香山リカなどといった、既にいろいろなところで問題が指摘されている論客がいまだに使われ続けている。このように「言論」「論壇」は、単純さを求めて双極に向かっていくという現状があるのです。

このような状況があるにも関わらず、「批評の再生」を掲げる勢力は、未だに「アメリカの影」みたいなものを追いかけているという現状です。少なくとも、「言論」が差別や暴力、もしくは狭隘な知見の肯定に使われているという現状に関する省察がない限り、「批評の再生」というものはあり得ないでしょう。まずはそこを直視する必要があります。

と、長々といまの「言論」に対する批判を書きましたが、本書の目的は、統計学を用いた「言論」の像の正式な把握です。

いまの時代、出版メディアにおいては、新書を中心に（2000年代に、出版メディアにおける「言論」の主戦場が、総合雑誌から新書を中心とする安価な書籍に移ったというのわかるかと思えます）様々な「言論」が展開されています。その中には「日本」や「日本人」を語るものも多く含まれています。特に東日本大震災以降、日本や日本人のあり方について改めて語るというこのブームが再び起こっています。

しかし、それらの言説は、消費財にはなっても正しい、または科学的な、もしくは社会的公正を重視した社会認識の涵養には至っていないような気がします。かつてから我が国においては「日本人論」が盛んであり、そして「日本人論」は一貫して消費財に過ぎないものであると繰り返し指摘されています。しかし、ただの消費財に成り下がっているとはいえず、何らかの（社会的公正や科学的なものではない）社会認識を社会に植え付けている可能性はあります（ちょうど、劣化言説の時代の若者論が、若者の様々な「問題」をめぐる、まとまりのない議論を展開しつつも、「若者が劣化している」という認識は確実に形成されていったように）。

近年は、「言論」や「論壇」に関する歴史的研究が見られるようになってきました。代表的なものとしては、大澤聡の『批評メディア論——戦前期日本の論壇と文壇』（岩波書店、2015年）や、かつて『論座』の編集長であった上丸洋一の『諸君！』『正論』の研究——保守言論はどう変容してきたか』（岩波書店、2011年）などが挙げられます。「日本人論」の研究についても、青木保の『日本文化論』の変容——戦後日本の文化とアイデンティティ（中公文庫、1994年）や船曳建夫の『日本人論』再考』（講談社学術文庫、2011年）のような研究があります。しかし、これらの研究は歴史的研究ではありませんが、計量的な研究についてはあまり見られません。

弊サークルでは、2013年に刊行した『統計学で解き明かす成人の日社説の変遷——平成日本若者論史5』（後藤和智事務所 Off Line, 2013年（杜の奇跡20））から、テキストマイニングの手法を使って、若者論などの分析を行ってきました。2014年の『ヤンキー』論の奇妙な位相——平成日本若者論史9』（後藤和智事務所 Off Line, 2014年（仙台コミケ216））からは、フリーのテキストマイニングソフト「KHCoder」を使った分析を開始しました。

今までの比較的大規模な分析だと、『劣化言説の時代』のメディアと論客・言論と論客の「再帰性」をめぐる——平成日本若者論史 Special』（後藤和智事務所 Off Line, 2015年（第20回文学フリマ東京））の元となった論文で行った香山リカの著作65冊の分析などのような通時的な分析が多かったと思いますが、今回は同じ時代に出された複数の著作について分析するという、共時的なものになります。扱う範囲こそ違いますが、計量的に分析することにより、何か新しいものが見えてきた、というのであれば、著者としてこれほど嬉しいことはありません。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

本書は、2011年から2016年にかけて刊行された「日本論」「日本人論」「日本社会論」について、数値的なスベックを割り出し、提示するという、いわば「カタログ」です。しかし、言論が消費財として提供される中で、このような形での言論のあり方の提示というのが行われてこなかったというのも事実です。

腐りきった「論壇」に、敢えて「カタログ」をぶつける、ということです。

何を素っ頓狂なことを言っているんだと思われた方、大丈夫です。私も素っ頓狂だと思っていますから。

第1部 分析手法と全体像

1. はじめに

まえがきでも書いたとおり、本書は、2011年から2016年にかけて刊行された「日本論」「日本人論」「日本社会論」を、計量テキスト分析の手法を用いて総合的に分析するものである。本書の目的は、一種の消費財として流通しているこれらの言論について、何らかの計量的な指標を算出することにより、その特徴と傾向を割り出すというものである。

2011年の東日本大震災や、2014年の、2020年東京オリンピックの開催決定などを受け、「日本」とは、「日本人」とはということを問い直すような言論のブームが出版メディア上で見られるようになっていく。保守論壇では、「旧皇族」であることを売りにする竹田恒泰が2010年から「日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか」(PHP新書、2010年)などの一連の著作で、日本という民族や文化がどのように生まれ、育ってきたのかということ語るようになっていく。

またテレビメディアを中心に、日本という国がいかに素晴らしく、日本人がいかに世界から尊敬されているかということを主張する番組も現れるようになっていく(星井七億は、このような言論を揶揄する「日本がすごい桃太郎」(<http://Tokuhatenablog.com/entry/2015/01/03/180601>)とどうパロディ作品を発表しているが、この作品の中にはテレビなどで見られるような「日本凄い」系言説の

特徴が詰まっているので一読をおすすめしたい)。

2000年代まで、日本社会が「劣化」しているという言説が流行していたのとは対照的に、2010年代には「希望」を語るような言説が横行している。その原因については説明されておらず、本書はあくまでも現状把握が目的であるため、本書でもその説明は措くこととする。とはいえ、2000年代や1990年代の言論の総括が行われていない状況でこのよう言論の傾向が極端から極端に触ると、むしろ「言論」それ事態に対する信用を低下させてしまうことになりかねないのではないか。さらに言うと、2000年代的な劣化言説は、規模が縮小したからといって刊行されていないわけではない。また、日本人論の一ジャンルとしての若者論は、こちらも2000年代に比べて規模が縮小したとはいえ、現在も継続して刊行されている。若者論出身の論客が社会について語るといふスタイルも続いている。

さらに言うと、2000年代以降は「総合雑誌」や「論壇誌」というものが衰退し(まえがきでは『論座』や『諸君』の休刊を挙げたが、それ以外には保守系の『SAPIO』が隔週刊から月刊に移行しているというものもある。また2000年代に『月刊』現代(講談社)が休刊し、それを引き継ぐ形で『g2』(講談社)というノンフィクション中心の雑誌が誕生したが、それも現在は休刊している)、出版メディアにおける評論の主戦場は、雑誌から、新書を中心とした安価な書籍に移行している。この傾向は、1998年に文藝春秋が「文春新書」を創刊して以降進化したものと言われている(是永論「日本社会「劣化」の言説分析——下拙の布置・展開およびその特徴と背景に関する研究」(READ研究会、2011年))。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

・各書籍のプロフィール

	単語数	文数	段落数	グループ
赤坂真理『愛と暴力の戦後とその後』	79,240	3,579	1,806	グループ2
ブレイディみかこ『This is Japan』	72,468	2,312	856	グループ2
ちきりん『自分のアタマで考えよう』	51,682	1,856	923	グループ3
古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』	96,095	3,769	1,427	グループ3
古谷経衛『左翼も右翼もウソばかり』	67,554	1,871	931	グループ4
原田曜平『ヤンキー経済』	44,387	1,608	815	その他
橋本治『バカになったか、日本人』	64,776	1,990	597	グループ2
速水健朗『1995年』	56,434	1,956	686	グループ4
平田オリザ『下り坂をそろそろと下る』	61,631	2,358	963	グループ4
堀有伸『日本のナルシズムの罪』	51,627	1,622	716	グループ4
堀井憲一郎『やさしさをまとった殲滅の時代』	55,571	2,753	1,106	グループ2
百田尚樹『大放言』	66,209	2,883	1,011	グループ2
イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』	44,710	1,585	709	グループ3
加藤典洋『戦後入門』	182,693	4,797	2,215	グループ1
香山リカ『劣化する日本人』	51,408	1,383	547	グループ2
熊代亨『ロスジェネ心理学』	82,586	2,056	835	その他
三浦展『第四の消費』	89,341	3,103	1,047	グループ3
宮台真司『私たちはどこから来て、どこへ行くのか』	143,220	4,921	1,416	グループ4
篠谷浩介『里山資本主義』	95,207	3,806	1,101	グループ3
村上裕一『ネットウヨ化する日本』	102,643	3,007	719	グループ4
中川淳一郎『バカざんまい』	59,545	2,182	803	グループ2
小熊英二『社会を変えるには』	164,157	5,902	1,973	グループ4
奥田愛基『変える』	83,722	3,916	1,328	グループ2
佐伯啓思『日本の宿命』	65,020	2,574	790	グループ1
税所篤快『ゆとり世代の愛国心』	68,842	3,117	1,216	グループ3
斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』	84,259	3,268	1,163	その他
佐々木俊尚『21世紀の自由論』	58,687	2,289	754	グループ4
白井聡『永続敗戦論』	69,926	1,930	436	グループ1
想田和弘『熱狂なきファシズム』	101,214	3,792	1,493	グループ4
鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	74,710	2,002	619	グループ4
橘玲『(日本人)』	113,257	3,669	1,697	グループ4
高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』	66,095	2,603	886	グループ4
武田砂鉄『紋切型社会』	88,892	3,083	719	グループ2
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』	66,551	2,175	764	グループ1
谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』	80,184	2,587	707	グループ3
宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	154,536	4,393	1,205	グループ4
和田秀樹『この国の冷たさの正体』	42,220	1,563	668	グループ3
渡部昇一『決定版 日本人論』	76,915	2,762	1,197	グループ1
山崎雅弘『戦前回帰』	101,664	2,097	1,320	グループ1
與那覇潤『中国化する日本』	112,791	2,401	1,073	グループ1

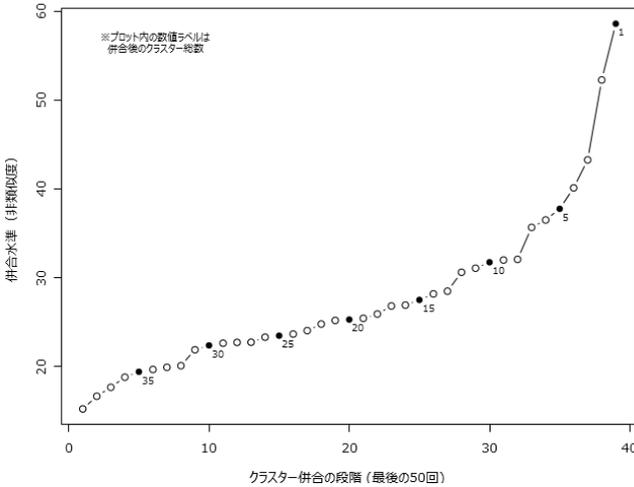
※この数字は筆者が独自に集計したものであり

OCRの認識ミスなどで実際とは異なる場合があります

そのような「言論」の置かれた現状を踏まえ、「日本」や「日本社会」を語る言説にどのような特徴があるのかを、本書では分析することとする。

2. 分析対象と手法

分析の対象としたのは、新書を中心に、「日本」や「日本人」「日本社会」について語った40冊の著作である。選考については、分析者が書店（古書店含む）で見かけて、分析の対象にしようと思ったものであり、かつて若者論として分析したものであったりするが、完全に主観であることをご承知願



たい。とはいえ、若者論はもとより、日本礼讃や反グローバルイズム、劣化言説など、できるだけ分析対象の多様性を確保するように選んだつもりである。著者に関しては、すべて違うものを選んだ。また、分析が複雑になることから、複数の著者によるもの、特に対談形式で進められているものは選ばなかった（ただし監修者がいて、その監修者が著作において中心的な役割を果たしている場合はこの限りではない）。対談形式の著作だと、段落もしくは小見出しごとに変数として話者を設定する必要があるため、分析が複雑になるからだ。

著作のデータ化については、全て分析者が自費で購入したものを分析者自身がPDFファイルにし、OCRソフト（読取革命 Ver. 1.5）パナソニックソリューションテクノロジー株式会社）を使ってテキストファイルに変換したものを使用した（認識ミスについてはできる限り修正した）。また註釈や文庫版の解説などは削除している。既存の同人誌で使ったテキストファイルを流用したものもあるが、大半は新規にテキストファイルを行った。分析に用いた著作は下記の通りである。

・新規にテキストファイル化を行ったもの

赤坂真理『愛と暴力の戦後とその後』講談社現代新書、2014年
 プレイデイみかこ『This is Japan——英国保育士が見た

日本』太田出版、2016年

古谷経衡『左翼も右翼もウンばかり』新潮新書、2015年

橋本治『バカになったか、日本人』集英社、2014年

速水健朗『1995年』ちくま新書、2013年

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析



平田オリザ『下り坂をそろそろと下る』講談社現代新書、2016年
 堀有伸『日本のナルシズムの罪』新潮新書、2016年
 堀井憲一郎『やさしさをまとった殲滅の時代』講談社現代新書、
 2013年
 百田尚樹『大放言』新潮新書、2015年
 加藤典洋『戦後入門』ちくま新書、2015年
 三浦展『第四の消費——つながりを生み出す社会へ』朝日新書、

2012年
 宮台真司『私たちはどこから来て、どこへ行くのか』幻冬舎、
 2014年
 澤谷浩介、NHK広島取材班『里山資本主義——日本経済は「安心の
 原理」で動く』角川Oneテーマ21、2013年
 村上裕一『ネットウヨ化する日本——暴走する共感とネット時代の「新
 中間大衆」』角川EPUB選書、2014年

- 中川淳一郎『バカざんまい』新潮新書、2016年
- 小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012年
- 奥田愛基『変える』河出書房新社、2016年
- 佐伯啓思『日本の宿命』新潮新書、2013年
- 税所篤快『ゆとり世代の愛国心』世界に出て、日本の奇跡が見えてきた』PHP新書、2014年
- 佐々木俊尚『21世紀の自由論』『優しいリアリズム』の時代へ』NHK出版新書、2015年
- 白井聡『永続敗戦論——戦後日本の核心』太田出版、2013年
- 想田和弘『熱狂なきファシズム——ニッポンの無関心を観察する』河出書房新社、2014年
- 鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ——〈多孔化〉した現実のなかで』NHKブックス、2013年
- 橘玲『日本人』幻冬舎文庫、2014年
- 高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』朝日新書、2015年
- 武田砂鉄『紋切型社会——言葉で固まる現代を解きほぐす』朝日出版社、2015年
- 竹田恒泰『日本人はいつ日本が好きになったのか』PHP新書、2013年
- 宇野常寛『リトル・ヒューブルの時代』幻冬舎文庫、2015年
- 和田秀樹『この国の冷たさの正体——一億総「自」責任』時代を生き抜く』朝日新書、2016年
- 渡部昇一『決定版 日本人論——日本人だけがもつ「強み」とは何か?』扶桑社新書、2016年
- 山崎雅弘『戦前回帰——「大日本病」の再発』学研マーケティング、2015年
- 與那覇潤『中国化する日本——増補版 日中「文明の衝突」一千年史』文春文庫、2014年
- ・『「ヤンキー」論の奇妙な位相』から流用したもの
- 原田曜平『ヤンキー経済——消費の主役・新保守層の正体』幻冬舎新書、2014年
- 斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら——ヤンキーと精神分析』角川書店、2012年
- ・『「劣化言説の時代」のメディアと論客』から流用したもの
- 香山リカ『劣化する日本人——自分のことしか考えられない人たち』ベスト新書、2014年
- ・『「新しい生き方」は誰のため?——平成日本若者論史12』(後藤和智事務所Offline、2014年(第19回文学フリマ東京) から流用したもの
- ちきりん『自分のアタマで考えよう——知識にだまされない思考の技術』ダイヤモンド社、2011年
- 古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社、2011年
- イケダハヤト『年収150万円でぼくらは自由に生きていく』星海社新書、2012年
- 谷本真由美『日本が世界「貧しい」国である件について』祥伝社、

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

2013年

・その他のところで使ったものを流用したもの

熊代亨「ロスジェネ心理学——生きづらいつらいこの時代をひも解く」花伝

社、2012年

単語の抽出にはフリーの形態素解析ソフト「MeCab」を使った。抽出にあたって、いくつかの単語を新規登録し、また表記の揺れがある単語を同じように認識されるような処理も行った（付録2参照）。クラスター分析及び対応分析においては、抽出した単語の内、全ての書籍で20%以上の占有率となる、出現数が96以上の自立語、2020単語を対象とした（付録1参照）。また共起ネットワークの描画においては、すべての自立語を対象とした。

本書の分析については、樋口耕一などが開発したフリーのテキストマイニングソフト「KHCoder」を用いている。「KHCoder」については、樋口による『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して』（ナカニシヤ出版、2015年）を参照されたい。

分析にあたり、40冊の著作をグループに分けた。グループ分けは階層的クラスター分析を用いた。単語は各書籍で標準化を行い、データ間の距離についてはユークリッド距離を用いた。クラスター分析の結果を見ると、概ね4つのグループに分けることができる。第1のグループは、佐伯、渡部、與那覇、山崎、加藤、白井、竹田が属するもので、これらの著作は、政治的主張は異なるが、歴史の視点から現代

の日本を論じているものと言える。第2のグループは、速水、古谷、想田、平田、小熊、高橋、村上、鈴木、堀、宮白、佐々木、橘が所属し、これらの著作は現代社会を中心に論じた言説であると言える。第3のグループは、ブレイディ、香山、武田、百田、中川、赤坂、堀井、橋本、奥田が所属するもので、これらは2000年代的な劣化言説の流れをくむものが多いグループと言える（所属しているすべての著作が劣化言説というわけではない）。第4のグループは、三浦、藻谷、ちきりん、イケダ、谷本、和田、古市、税所が属するもので、これらは消費社会論を中心とする「若手論壇」的な傾向が強いと言えることができるだろう。なお、原田、斎藤、宇野、熊代については、どのグループにも属さないとするのが妥当とみられる。

3. 対応分析

対応分析を用いて各単語の傾向を調べた。今回のデータは分析対象の著作が40冊、分析対象の単語が2020単語なので、主成分は39個生成される。ここでは、その中から寄与率が高い順番に8つの主成分を見ることとした。この8主成分によるデータ全体への寄与率は4.4、8.6%である。それぞれの主成分の寄与率は別表の通りである。

主成分1…歴史／生活

第1主成分は、正の方向には第二次世界大戦における日米戦争やその後のアメリカによる占領政策に関する単語が並んでいる。一方負の方向には、「マイルドヤンキー」などの若者文化に関する単語や、「友達」「異性」などの人間関係、消費生活に関する単語が配置されている。以上から、第1主成分は、正の方向は「歴史」、負の方向は「生活」を示すものであると言える。

第1主成分で正の方向を示しているのは、加藤典洋、山崎雅弘、白井聡などといった歴史を取り扱った著作が並び、負の方向には原田曜平や熊代亭などの消費社会論を中心とした社会評論や、中川淳一郎、堀井憲一郎などの劣化言説などが配置された結果となった。

主成分2…文学・サブカルチャー「宇野常寛」／社会運動

第2主成分の正の方向には、宇野常寛の著作で用いられている単語が多く並んでいる。そのため正の方向は、ほとんど宇野を識別するた

めだけのものと見て差し支えないだろう。とはいえその下に位置する著者を見ると、村上裕一、斎藤環、宮台真司、鈴木謙介といった、1990年代から2000年代初頭の若者論を担う論客や、その流れをくむ論客が連なっている。負の方向は、奥田愛基による「SEALDs」のほか、デモや運動に関するものが多い。このことから、負の方向は、2010年代の、主に若い世代による新しい社会運動や、その流れの源流に位置する労働問題を扱ったものと見なしていいだろう。最も主成分が負の方向に触れているのは奥田であり、その他負の方向に強く触れているのはブレイデイみかこ、橋本治、小熊英二などといった近年の社会運動を採り上げている論客が目立つ。

主成分3…グローバル経済／若者

第3主成分は、正の方向に位置する単語として、主に藻谷浩介の著作の中で用いられている単語が多い。とはいえこの主成分が、第2主成分における宇野常寛のように、ひとり藻谷のみを識別するためだけの主成分になっているわけではなく、主成分得点が正の方向に上位に位置している論客を見ても、藻谷のほか、小熊英二や與那覇潤、橘玲などといった、立場は違えどグローバルバリズムについて何らかの言及をしている論客が配置されている。このことから、正の方向性を示すのは、グローバルバリズムに関する言及であると言える。他方、負の方向に属する単語は、「ヤンキー」「オタク」などの若者文化論に関する単語が中心だ。このことから、負の方向は、若者文化論への親和性と解釈することができる。負の方向の上位に属する著者も、斎藤環、熊代亭、原田曜平、村上裕一などといった若者文化論の著者が多い。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

主成分4…表現・運動または劣化言説／心理・私生活

第4主成分の正の方向に配置された単語を見ると、「SEALDs」のほか、「ドキュメンタリー」や「撮る」「映画」などの想田和弘の著作で使用されている単語が配置されているが、それらと並んで「保育園」「保育」などのブレイディみかこの著作で使われている単語も見られる（なお、ブレイディはSEALDsにも言及している）。そのため第4主成分の正の方向は、単語だけを見ると表現・運動に関する方向性と見られるが、正の方向に配置された論客を見ると、奥田や想田、ブレイディないし税所篤快に並んで、百田尚樹や中川淳一郎、橋本治などといった劣化言説系の著者も配置されている。これらの著者は近年の社会運動に対して言及していないものが多いため、なぜこのような配置になったのかは、少なくとも上位に位置した単語からは見るのが困難である。一方、負の方向に配置された単語は、主に若い世代の心理や、コミュニケーション、世代論に関する単語が多い。負の方向に配置されている論客としては、熊代亨や鈴木謙介などといった若者論系が多い。

主成分5…戦後史「加藤典洋」／日本史「山崎雅弘・渡部昇一」

第5主成分は歴史に関して採り上げた著作を分類するものとなった。正の方向には、「投下」「原爆」などといった、第二次世界大戦やその周辺の時代に特化した単語が多く配置されており、この方向に配置されている代表的な著者は加藤典洋であることから、戦後史に対する言及であることがわかる。正の方向では加藤典洋が圧倒的に高い絶

対値を示しているが、第2主成分における宇野常寛ほど極端ではない。またこちらには三浦展や原田曜平といった消費社会論系の論客も配置されているが、これは現代の（若者を中心とする）消費社会のあり方が、戦後などと比べて異なることを示すために、戦後史への言及を行っているという背景が推測される。他方で負の方向は、日本史や国体、民族のあり方に関する単語が並んでいる。概ねこの方向は、山崎雅弘と渡部昇一のための主成分と見ることができそうだ。

主成分6…若手論壇？／（主に若者の）人間関係

第6主成分であるが、判断が難しいものとなった。というのも、正の方向には、「ヤンキー」や「ギャル」などといった若者文化論、「ニーズ」「シェア」「マーケティング」などといった消費社会に関する単語、そして「神道」「靖国神社」「国体」「皇室」などといった国体に関する単語が入り乱れるものとなっている。著者ごとの得点を見ると、齋藤環や三浦展などといった現在の「若手論壇」に影響を与えた論客や、原田曜平や與那覇潤、古市憲寿などといった若手論客が並んでいるので「若手論壇」ということができそうであるが、この方向には渡部昇一や竹田恒泰も属しており、単純な傾向を推測するのは困難である。一方負の方向は比較的わかりやすく、主に若者の人間関係についての単語が並んだ。こちらも第4主成分の正の方向と同様、想田和弘の著作で使われている単語が多いが、想田自身の得点は最も強く負の方向に触れているというわけでもない。

主成分7…歴史？／若者文化

第7主成分の正の方向も、第6主成分の正の方向と同様、様々なトピックに関する単語が入り乱れ、判断に困る主成分となっている。正の方向の上位に並ぶ著者を見ても、熊代亨、山崎雅弘、イケダハヤト、谷本真由美、税所篤快と、第6主成分の正の方向では少なくとも著者でならある程度の一貫性が見られたが、ここではそれすら見られなくなっている。山崎と渡部昇一、竹田恒泰が上位に入っていることを考えると「歴史」ということになるかもしれないが、第6主成分の正の方向以上の留保が必要だ。一方負の方向は、若者文化に関する単語であり、消費社会に関するものとインターネットに関するものが同時に配置されるといふわかりやすいものとなった。負の方向の上位陣も、概ね若者論の論客や若手論客で構成されている。

主成分8…若者の心性／インターネット

第8主成分は、第7主成分では負の方向に同時に配置されていた単語が分かれて配置される結果となった。正の方向には消費社会や若者の心性に関する単語が、負の方向にはインターネットに関する単語が配置されている。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

対応分析・著者ごとの主成分得点

	主成分1	主成分2	主成分3	主成分4	主成分5	主成分6	主成分7	主成分8
赤坂真理	0.0396	-0.1844	-0.2919	0.7659	-0.1055	-0.0666	0.2172	0.4223
ブレイディみかこ	<u>-0.8912</u>	<u>-0.7612</u>	0.4444	1.1370	0.4261	<u>-0.6985</u>	0.5503	0.9354
ちきりん	<u>-0.6533</u>	-0.4780	0.4676	-0.1738	0.5218	-0.3118	0.9467	-1.5055
吉市憲寿	<u>-0.7663</u>	-0.4897	0.2914	0.2951	0.4098	0.5102	-0.0513	-0.2055
古谷経衛	0.5052	-0.2004	-0.2456	0.5024	-0.1005	-0.3650	<u>-1.0425</u>	-0.7990
原田曜平	<u>-1.8271</u>	-0.3833	<u>-2.2912</u>	0.0315	1.4048	4.4677	<u>-0.7781</u>	0.0567
橋本治	-0.1815	<u>-0.6817</u>	0.5312	1.3019	0.0411	<u>-0.8598</u>	-0.4605	0.5326
速水健朗	-0.2419	0.0538	0.5559	-0.1302	0.1664	0.2079	<u>-0.5785</u>	-1.4423
平田オリザ	-0.3615	-0.3214	0.1800	0.2944	0.0746	0.2109	0.1459	-0.3405
堀有伸	-0.1199	0.2095	<u>-0.9761</u>	<u>-1.2493</u>	<u>-0.9230</u>	<u>-1.0106</u>	0.6564	0.5864
堀井憲一郎	<u>-0.8315</u>	-0.0170	-0.2964	0.4623	0.2469	-0.2649	-0.1130	-0.2438
百田尚樹	-0.4197	<u>-0.5268</u>	-0.4447	1.6086	0.0471	-0.3274	0.3065	-0.0281
イクダハヤト	<u>-1.3061</u>	<u>-0.5007</u>	0.2364	-0.3022	0.7482	-0.0320	1.1558	<u>-1.3205</u>
加藤典洋	2.4504	-0.2577	<u>-0.8286</u>	-0.2280	2.6284	<u>-0.3589</u>	0.1920	0.1829
香山リカ	<u>-0.6261</u>	-0.1607	<u>-0.8501</u>	0.2762	-0.2017	<u>-0.7910</u>	0.0230	-0.0122
熊代亨	<u>-1.3954</u>	0.0661	<u>-2.7211</u>	<u>-2.3701</u>	<u>-0.5516</u>	<u>-1.6837</u>	2.7550	2.1086
三浦展	<u>-1.1776</u>	-0.2924	0.5336	<u>-1.3270</u>	1.1667	1.8741	0.5337	-1.5024
宮台真司	0.0417	0.4541	0.3626	-1.7447	-0.3212	<u>-0.5313</u>	<u>-1.1861</u>	-0.1551
藻谷浩介	<u>-0.7828</u>	<u>-0.6367</u>	1.5996	<u>-0.6804</u>	1.0232	1.1254	0.9566	<u>-1.0294</u>
村上裕一	-0.1629	0.7272	<u>-0.8936</u>	-0.0802	<u>-0.8453</u>	<u>-0.6904</u>	<u>-1.8394</u>	<u>-1.4542</u>
中川淳一郎	<u>-0.9425</u>	<u>-0.5229</u>	<u>-0.5338</u>	1.4816	0.2335	-0.3439	0.2024	-0.6118
小熊英二	-0.1487	<u>-0.5117</u>	1.4545	<u>-0.7010</u>	-0.1174	-0.2113	<u>-0.7654</u>	1.4174
奥田愛基	<u>-0.9782</u>	<u>-0.7622</u>	-0.1615	2.0297	0.3697	<u>-0.8416</u>	0.0569	0.4776
佐伯啓思	1.1243	-0.2394	0.3788	-0.1692	-0.2986	0.2720	-0.3031	1.1121
祝所篤快	<u>-0.6309</u>	-0.4365	-0.0907	1.1036	0.3866	-0.0729	1.0077	-0.1866
斎藤環	<u>-0.5329</u>	0.4717	<u>-2.8473</u>	0.1482	-0.4812	2.6928	<u>-2.5019</u>	1.8594
佐々木俊尚	0.3836	-0.1139	1.2534	<u>-0.9890</u>	-0.3234	0.0477	<u>-0.6246</u>	0.7186
白井聡	1.9271	-0.0746	<u>-0.6038</u>	-0.2186	0.3073	0.0146	-0.1238	-0.3767
想田和弘	0.0264	-0.1576	-0.2029	1.7912	<u>-0.5964</u>	<u>-1.4697</u>	<u>-1.4491</u>	-0.1978
鈴木謙介	<u>-0.5764</u>	0.4400	<u>-0.7777</u>	-1.7635	-0.2163	<u>-1.6229</u>	<u>-1.2835</u>	<u>-2.6543</u>
橋玲	0.2559	-0.0574	1.1035	<u>-0.9610</u>	<u>-0.6067</u>	0.2318	-0.2585	0.6483
高橋源一郎	-0.1654	-0.2440	0.1931	0.8623	-0.0355	-0.4986	-0.3100	0.3008
武田砂鉄	<u>-0.6168</u>	-0.1166	<u>-0.6741</u>	0.8048	-0.0957	-0.4845	0.0813	-0.2718
竹田恒泰	1.5625	-0.4175	-0.2660	0.4515	<u>-0.5492</u>	0.4219	0.8420	-0.3355
谷本真由美	<u>-0.7655</u>	<u>-0.7496</u>	0.4503	0.4097	0.0826	0.0362	1.0362	-0.2017
宇野常寛	-0.1388	0.4051	0.6876	0.7834	0.4119	0.2088	0.8073	0.2669
和田秀樹	<u>-0.6395</u>	-0.4352	0.1982	-0.1506	-0.2303	<u>-0.6403</u>	0.6603	0.1972
渡部昇一	0.6211	-0.4111	0.4649	0.5324	<u>-1.4971</u>	0.9763	0.8843	0.6953
山崎雅弘	1.9774	-0.2545	<u>-0.5715</u>	0.3233	<u>-3.0167</u>	1.2829	1.6889	<u>-1.5181</u>
與那覇潤	0.5495	-0.2974	1.3903	-0.2163	<u>-0.7541</u>	0.6212	-0.3625	1.2293
寄与率	10.06%	9.46%	4.83%	4.75%	4.39%	4.00%	3.78%	3.59%
累積寄与率	10.06%	19.52%	24.35%	29.10%	33.49%	37.50%	41.27%	44.86%

上位

1	加藤典洋	宇野常寛	藻谷浩介	奥田愛基	加藤典洋	原田曜平	熊代亨	熊代亨
2	山崎雅弘	村上裕一	小熊英二	想田和弘	原田曜平	斎藤環	山崎雅弘	斎藤環
3	白井聡	斎藤環	與那覇潤	百田尚樹	三浦展	三浦展	イクダハヤト	小熊英二
4	竹田恒泰	宮台真司	佐々木俊尚	中川淳一郎	藻谷浩介	山崎雅弘	谷本真由美	與那覇潤
5	佐伯啓思	鈴木謙介	橋玲	橋本治	イクダハヤト	藻谷浩介	祝所篤快	佐伯啓思
6	渡部昇一	堀有伸	宇野常寛	ブレイディみかこ	ちきりん	渡部昇一	藻谷浩介	ブレイディみかこ
7	與那覇潤	熊代亨	速水健朗	祝所篤快	ブレイディみかこ	與那覇潤	渡部昇一	佐々木俊尚
8	古谷経衛	速水健朗	三浦展	高橋源一郎	宇野常寛	吉市憲寿	渡部昇一	斎藤環
9	佐々木俊尚	堀井憲一郎	橋本治	武田砂鉄	吉市憲寿	竹田恒泰	竹田恒泰	橋玲
10	橋玲	橋玲	ちきりん	宇野常寛	祝所篤快	佐伯啓思	宇野常寛	堀有伸

下位

1	原田曜平	奥田愛基	斎藤環	熊代亨	山崎雅弘	熊代亨	斎藤環	鈴木謙介
2	熊代亨	ブレイディみかこ	熊代亨	鈴木謙介	渡部昇一	鈴木謙介	村上裕一	山崎雅弘
3	イクダハヤト	谷本真由美	原田曜平	宮台真司	堀有伸	想田和弘	想田和弘	ちきりん
4	三浦展	橋本治	堀有伸	三浦展	村上裕一	堀有伸	鈴木謙介	三浦展
5	奥田愛基	藻谷浩介	村上裕一	堀有伸	與那覇潤	橋本治	宮台真司	村上裕一
6	中川淳一郎	百田尚樹	香山リカ	佐々木俊尚	橋玲	奥田愛基	古谷経衛	速水健朗
7	ブレイディみかこ	中川淳一郎	加藤典洋	橋玲	想田和弘	香山リカ	原田曜平	イクダハヤト
8	堀井憲一郎	小熊英二	鈴木謙介	小熊英二	熊代亨	ブレイディみかこ	小熊英二	藻谷浩介
9	藻谷浩介	イクダハヤト	武田砂鉄	藻谷浩介	竹田恒泰	村上裕一	佐々木俊尚	古谷経衛
10	吉市憲寿	吉市憲寿	白井聡	イクダハヤト	斎藤環	和田秀樹	速水健朗	中川淳一郎

第1部 分析手法と全体像

単語ごと

	主成分3				主成分4			
	昇順		降順		昇順		降順	
	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点
1	里山	5.4795	充たす	-9.3585	SEALDs	6.5186	充たす	-8.2465
2	オーストリア	4.9627	ヤンキー	-9.3281	ドキュメンタリー	5.5291	思春	-6.8642
3	近世	4.5884	キャラ	-9.2353	観客	4.8949	異性	-6.6272
4	おきる	4.2899	ギャル	-8.1287	観る	4.5716	空洞	-5.6182
5	この世	4.1318	思春	-7.9599	バカ	4.2195	子育て	-4.9308
6	中世	3.8753	マイルドヤンキー	-7.9234	なんで	4.1081	ウェブ	-4.7124
7	江戸	3.8032	異性	-7.8961	撮る	4.0338	無い	-4.2493
8	燃料	3.7418	無い	-6.4074	まあ	3.7555	再帰	-4.1084
9	古代	3.6490	子育て	-5.4638	法案	3.6685	キャラ	-4.0533
10	貨幣	3.5797	パーソナリティ	-5.4426	映画	3.6025	権益	-4.0279
11	貴族	3.5329	不良	-4.9846	正直	3.5735	世話	-3.9488
12	木	3.4797	コンテンツ	-4.6026	保育園	3.5434	うつ病	-3.9340
13	工業	3.4659	ニーズ	-4.5570	バングラデシュ	3.3883	空間	-3.8919
14	資本	3.4538	適応	-4.3642	ー	3.3790	ライフスタイル	-3.8801
15	富	3.4512	友達	-4.1864	国会	3.2890	一体	-3.8791
16	人びと	3.2453	親和	-4.0103	保育	3.2677	コミュニケーション	-3.8007
17	電気	3.2232	暴走	-3.9322	なんだか	3.2616	振る舞い	-3.7835
18	戦国	3.2131	一体	-3.8975	撮影	3.2465	個性	-3.7347
19	電力	3.1019	世話	-3.8727	虐殺	3.1944	パーソナリティ	-3.5850
20	農民	3.0570	恋愛	-3.7615	笑う	3.0504	適応	-3.4710
21	封建	2.9888	人達	-3.6895	作家	2.9983	監視	-3.4476
22	リベラル	2.9856	母親	-3.6238	きっと	2.9776	心理	-3.3177
23	田舎	2.9783	男女	-3.4923	観察	2.9519	依存	-3.2871
24	身分	2.9762	参考	-3.4447	改憲	2.8677	蓄積	-3.2605
25	グローバル	2.9736	漫画	-3.3750	抗議	2.8485	自治	-3.2089
26	農業	2.9666	両親	-3.2431	カメラ	2.8175	理論	-3.1426
27	ひと	2.8766	ファッション	-3.2131	演劇	2.7635	コンテンツ	-3.1268
28	ヨーロッパ	2.8637	葛藤	-3.1903	ブラザー	2.7531	団塊	-3.0621
29	理性	2.8121	個性	-3.1841	リトル・ビーブル	2.7380	自己	-3.0336
30	輸出	2.7696	心理	-3.1613	変身	2.7342	共同	-3.0315
31	失業	2.7432	遊ぶ	-3.1547	怪獣	2.7067	葛藤	-3.0010
32	金融	2.7394	結婚	-3.0460	夏	2.7010	ソーシャル	-2.9887
33	工場	2.7089	うつ病	-3.0234	仮面ライダー	2.7009	モダン	-2.9202
34	山	2.6887	父親	-2.9593	総理	2.6813	欲求	-2.8738
35	エネルギー	2.6707	コミュニケーション	-2.9332	あ	2.6811	ひと	-2.8607
36	組合	2.6653	オタク	-2.9319	授業	2.6796	踏まえる	-2.8502
37	主婦	2.6266	車	-2.9241	ビッグ	2.6652	男女	-2.8242
38	資金	2.5820	教師	-2.8828	春樹	2.6644	オタク	-2.7949
39	年金	2.5659	中学	-2.8728	シーン	2.6484	シェア	-2.7170
40	貿易	2.5455	拘束	-2.8640	ウルトラマン	2.6367	マーケティング	-2.7125
41	保険	2.5284	遊び	-2.8284	日本国	2.6189	参照	-2.7112
42	補助	2.5194	スタイル	-2.8191	音	2.5657	領域	-2.7107
43	投資	2.5120	地元	-2.8109	候補	2.5607	習慣	-2.6947
44	武士	2.5055	会話	-2.7857	ヒーロー	2.5450	行政	-2.6512
45	発電	2.4918	2ちゃんねる	-2.7435	デモ	2.5348	後期	-2.6431
46	ベトナム	2.4771	興味深い	-2.7298	ひとり	2.5303	テクノロジー	-2.6324
47	村	2.4475	引用	-2.6640	回路	2.5126	商店	-2.6187
48	効率	2.4193	検討	-2.6280	辞める	2.4809	生産	-2.5806
49	雇用	2.4133	リアリズム	-2.6206	選挙	2.4615	セカイ	-2.5732
50	産業	2.4124	過ごす	-2.6144	絶望	2.4441	物	-2.5533

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

単語ごとの対応分析得点

	主成分1				主成分2			
	昇順		降順		昇順		降順	
	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点
1	核兵器	5.2159	マイルドヤンキー	-4.3852	ブラザー	10.0672	SEALDs	-1.8295
2	投下	5.0225	充たす	-3.3476	リトル・ビーブル	10.0208	保育園	-1.7774
3	降伏	4.9553	友達	-2.9473	仮面ライダー	9.9584	保育	-1.7474
4	国連	4.7954	異性	-2.8619	ウルトラマン	9.9501	里山	-1.5701
5	講和	4.7942	息春	-2.8566	怪獣	9.7799	オーストリア	-1.4913
6	原爆	4.7606	ハウス	-2.6970	変身	9.7253	なんで	-1.3897
7	ボツダム	4.6313	地元	-2.6756	春樹	9.7048	給料	-1.3865
8	従属	4.6228	ブランド	-2.5248	ビッグ	9.5787	英国	-1.3803
9	無条件	4.5555	子育て	-2.5220	ヒーロー	8.5145	木	-1.3549
10	条項	4.5270	ライフスタイル	-2.5172	コミットメント	8.3981	デモ	-1.2832
11	団体	4.3640	欲しい	-2.4897	作	8.3159	バカ	-1.2680
12	協定	4.3437	スキル	-2.4378	村上	8.2220	笑う	-1.2622
13	神道	4.2646	車	-2.4304	シリーズ	8.1156	辞める	-1.2431
14	同盟	4.1400	シェア	-2.4114	回路	7.9587	人材	-1.1983
15	爆弾	4.0607	キャラ	-2.3750	ロボット	7.3650	お金	-1.1963
16	国益	4.0021	マーケティング	-2.3743	創作	7.2741	まあ	-1.1856
17	連合	3.9963	個性	-2.2214	キャラクター	6.4984	なんだか	-1.1842
18	マッカーサー	3.9709	飲む	-2.1713	超越	5.9597	この世	-1.1768
19	GHQ	3.9159	人達	-2.1368	放映	5.9148	組合	-1.1583
20	戦中	3.8972	無い	-2.1288	ガン	5.8341	おきる	-1.1577
21	靖国神社	3.8907	SEALDs	-2.1252	父	5.6652	NPO	-1.1550
22	受諾	3.8822	遊ぶ	-2.0854	比喻	5.5862	スキル	-1.1520
23	敗戦	3.7754	保育	-2.0657	物語	5.3836	都会	-1.1494
24	フィリピン	3.7342	物	-2.0373	天	5.3615	貸金	-1.1476
25	軍入	3.7226	保育園	-2.0359	悪	5.3289	きっと	-1.1470
26	米	3.6971	パーソナリティ	-2.0166	虚構	5.0686	イギリス	-1.1449
27	条約	3.6849	高級	-2.0139	生	4.9449	電気	-1.1321
28	米国	3.6730	結婚	-2.0125	拡張	4.8210	町	-1.1303
29	ソ連	3.6250	稼ぐ	-1.9684	記述	4.7366	そんなに	-1.1251
30	基地	3.6141	ニーズ	-1.9548	主人公	4.6043	燃料	-1.1106
31	占領	3.6007	団塊	-1.9456	宇宙	4.5907	授業	-1.1105
32	吉田	3.5670	消費	-1.9368	人格	4.5746	稼ぐ	-1.1081
33	陸軍	3.5667	遊び	-1.9287	正義	4.5072	方々	-1.1069
34	八月	3.5586	皆さん	-1.9268	ネットワーク	4.3185	サラリーマン	-1.0889
35	英	3.5574	給料	-1.8998	回帰	4.3150	飲む	-1.0769
36	ほかなる	3.5509	ヤンキー	-1.8982	ナルシズム	4.3066	バン格拉デシュ	-1.0721
37	核	3.5206	貧乏	-1.8878	身体	4.2064	労働	-1.0698
38	軍事	3.4552	電車	-1.8858	設定	4.0318	人びと	-1.0673
39	東亜	3.4357	サービス	-1.8801	春	3.9883	ショック	-1.0634
40	制定	3.4081	暮らし	-1.8795	壁	3.9708	山	-1.0602
41	終結	3.3960	幸せ	-1.8717	位置づける	3.8173	貧困	-1.0596
42	軍国	3.3831	里山	-1.8700	前述	3.7676	安い	-1.0549
43	兵器	3.3662	旅行	-1.8532	劇	3.7353	高齢	-1.0473
44	部隊	3.3501	NPO	-1.8464	アイデンティティ	3.6816	法案	-1.0412
45	武装	3.3331	世代	-1.8381	オウム真理教	3.6129	ハウス	-1.0354
46	神社	3.2930	部屋	-1.8229	文学	3.5101	資産	-1.0272
47	續士	3.2137	先輩	-1.8218	想像	3.3785	グラフ	-1.0268
48	国際	3.2126	店	-1.8168	小説	3.2340	国会	-1.0237
49	平和	3.2116	コンビニ	-1.8146	内面	3.2148	暮らし	-1.0183
50	大戦	3.1864	商品	-1.7986	用いる	3.2051	聞く	-1.0141

第1部 分析手法と全体像

単語ごと

	主成分7				主成分8			
	昇順		降順		昇順		降順	
	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点
1	充たす	10.7934	ギャル	-8.3297	充たす	8.3751	ウェブ	-9.0545
2	思春	8.4006	ヤンキー	-8.3094	キャラ	7.6515	ソーシャル	-5.8338
3	異性	8.2489	セカイ	-6.0599	思春	6.9590	観光	-5.6383
4	無い	6.8234	ネット右翼	-5.8618	異性	6.9052	神道	-4.8723
5	子育て	6.4800	在特会	-5.4002	ヤンキー	5.9489	グラフ	-4.8573
6	神道	6.0507	2ちゃんねる	-5.1120	ギャル	5.5793	出生	-4.7427
7	人達	5.4500	ドキュメンタリー	-4.9341	おきる	4.9430	戦中	-4.7035
8	神社	5.0533	リアリズム	-4.7472	子育て	4.6996	監視	-4.7008
9	個性	5.0044	観客	-4.2299	この世	4.6722	ネット右翼	-4.6015
10	軍人	4.9756	空洞	-4.1588	無い	4.6273	振る舞い	-4.5145
11	靖国神社	4.8148	アクション	-4.1563	近世	4.6040	スマートフォン	-4.4958
12	戦中	4.7826	ウェブ	-4.0248	適応	4.4485	ユーザー	-4.4704
13	国体	4.7488	撮影	-4.0228	開国	4.2769	シェア	-4.3936
14	パーソナリティ	4.6196	ユーザー	-3.9189	人達	4.1935	ハウス	-4.3337
15	一体	3.9574	オタク	-3.8598	古代	3.8143	靖国神社	-4.3322
16	皇室	3.8041	不良	-3.8103	父親	3.7107	携帯	-4.2790
17	部隊	3.7805	観る	-3.7456	戦国	3.6933	国体	-4.2431
18	里山	3.7460	観察	-3.7058	江戸	3.6485	筆者	-4.2259
19	スキル	3.6480	漫画	-3.5794	パーソナリティ	3.5907	里山	-4.1134
20	陸軍	3.5970	カメラ	-3.5162	保育	3.5771	軍人	-4.0628
21	バングラデシュ	3.5194	再帰	-3.4092	中世	3.5220	2ちゃんねる	-4.0505
22	オーストリア	3.5004	音楽	-3.3839	母親	3.4774	神社	-4.0496
23	うつ病	3.4914	スマートフォン	-2.3212	人びと	3.3947	電話	-3.9786
24	男女	3.4698	撮る	-3.1804	貴族	3.3072	発売	-3.9348
25	世話	3.3487	自治	-3.1613	組合	3.3021	空間	-3.9015
26	遊ぶ	3.3365	権益	-3.1385	男女	3.1880	分断	-3.8991
27	ライフスタイル	3.2565	マイルヤンキー	-3.0461	封建	3.1214	マーケティング	-3.8876
28	太平洋戦争	3.2378	動画	-2.9593	不良	3.1099	アクセス	-3.8383
29	ブラザー	3.1852	ファッション	-2.8497	リアリズム	3.0639	在特会	-3.7774
30	リトル・ピープル	3.1654	振る舞い	-2.8353	身分	3.0492	オーストリア	-3.5816
31	グラフ	3.1513	筆者	-2.8214	武士	3.0125	情報	-3.5684
32	遊び	3.1179	ファシズム	-2.7878	西洋	2.9755	セカイ	-3.5382
33	恋愛	3.0926	必ずしも	-2.7723	保育園	2.9338	物	-3.5273
34	ウルトラマン	3.0822	映画	-2.7312	幕府	2.9278	利用	-3.4966
35	暮らし	3.0665	作品	-2.7301	理性	2.9157	部隊	-3.4810
36	変身	3.0619	議席	-2.7087	世話	2.8529	広告	-3.4521
37	仮面ライダー	3.0543	参考	-2.6991	意志	2.8337	消費	-3.3878
38	金銭	3.0444	しばしば	-2.6958	一体	2.8224	図	-3.2975
39	怪獣	3.0271	奇妙	-2.6871	対話	2.8061	プロセス	-3.2930
40	適応	3.0238	とりわけ	-2.6573	みる	2.7913	通信	-3.2840
41	ビッグ	2.9959	橋下	-2.6083	影	2.7855	パソコン	-3.2731
42	ハウス	2.9210	興味深い	-2.5782	富	2.7751	メーカー	-3.2110
43	春樹	2.8845	おきる	-2.5769	平等	2.7070	陸軍	-3.1165
44	軍国	2.8730	決断	-2.5610	拘束	2.6031	客	-3.0895
45	平成	2.8052	右翼	-2.5532	自発	2.5964	メディア	-3.0087
46	木	2.7612	監視	-2.4785	うつ病	2.5858	料理	-2.9824
47	仏教	2.6859	理論	-2.4742	出来る	2.5812	住宅	-2.9732
48	ヒーロー	2.6289	共感	-2.4625	ひと	2.5740	商品	-2.9106
49	皆さん	2.5609	この世	-2.3737	労働	2.4648	視聴	-2.8579
50	ナルシズム	2.5554	動員	-2.3695	運動	2.4465	役割	-2.8317

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

単語ごと

	主成分5				主成分6			
	昇順		降順		昇順		降順	
	単語	得点	単語	得点	単語	得点	単語	得点
1	国連	7.9388	神道	-9.9105	マイルドヤンキー	17.0317	充たす	-6.4029
2	投下	7.8136	戦中	-8.8637	ヤンキー	11.4197	思春	-5.2431
3	原爆	7.3999	靖国神社	-8.4501	ギャル	9.1688	ウェブ	-5.0966
4	核兵器	7.2936	神社	-8.1406	地元	8.9714	ドキュメンタリー	-4.7743
5	従属	5.5292	軍人	-7.9975	友達	7.2255	異性	-4.7191
6	無条件	5.4752	国体	-7.4842	車	6.5961	パーソナリティ	-4.4449
7	核	5.3136	皇室	-6.1595	ブランド	6.5022	顧客	-4.1749
8	爆弾	5.3037	太平洋戦争	-6.0436	不良	6.4329	人達	-4.1310
9	墓地	5.2753	部隊	-5.7861	暴走	5.8163	撮影	-4.0621
10	マイルドヤンキー	5.1001	陸軍	-5.1200	ファッション	5.6363	無い	-3.9110
11	国益	4.8017	仏教	-4.5094	高級	5.0273	カメラ	-3.6220
12	降伏	4.7133	軍	-4.4516	神道	4.5634	うつ病	-3.5758
13	フィリピン	4.6117	天皇	-4.4220	志向	4.5607	振る舞い	-3.5517
14	吉田	4.4787	幕府	-4.3029	感性	4.3366	世話	-3.5404
15	条項	4.3704	見なす	-4.0303	ニーズ	4.3139	観察	-3.4976
16	路線	4.3026	日本国	-3.9946	物	4.2748	撮る	-3.4771
17	米国	4.1124	命	-3.9301	里山	4.2523	葛藤	-3.3255
18	国際	3.9128	軍国	-3.8762	欲しい	4.1433	子育て	-3.2718
19	はじまる	3.9098	武士	-3.6054	神社	4.0780	コンテンツ	-3.1786
20	提案	3.8346	大日本帝国	-3.4686	シェア	4.0356	監視	-3.1778
21	協定	3.8264	形式	-3.4534	中学	3.9944	SEALDs	-3.0811
22	謝罪	3.8088	兵士	-3.2628	消費	3.9736	友だち	-3.0502
23	オーストリア	3.7342	命令	-3.0757	オーストリア	3.8984	一体	-2.9821
24	同盟	3.6905	思想	-3.0226	旅行	3.8515	恋愛	-2.8671
25	里山	3.6738	統治	-3.0190	靖国神社	3.7232	慣れる	-2.7844
26	米	3.5079	戦国	-2.9296	好む	3.6875	コミュニケーション	-2.7378
27	講和	3.4409	神話	-2.8933	リアリズム	3.6521	観る	-2.7329
28	理念	3.3438	宗教	-2.8299	マーケティング	3.6370	空間	-2.6109
29	広島	3.3136	近世	-2.8026	軍人	3.6285	出来る	-2.5967
30	使用	3.2250	明治維新	-2.7508	都会	3.6283	映画	-2.5832
31	平和	3.2008	学問	-2.7454	戦中	3.6243	保育	-2.5514
32	ソ連	3.1504	部下	-2.7231	国体	3.5569	える	-2.5270
33	放棄	3.1001	西洋	-2.6725	商品	3.5278	障書	-2.5154
34	連合	3.0998	明治	-2.6526	建築	3.5015	心理	-2.4775
35	イデオロギー	3.0806	優れる	-2.5973	笑	3.4564	患者	-2.4750
36	構想	3.0729	実質	-2.5270	皇室	3.4396	分断	-2.4718
37	原子	2.9428	一体	-2.5093	夫婦	3.2718	場面	-2.4482
38	シェア	2.9175	敗北	-2.4711	漫画	3.0455	映像	-2.3471
39	ハウス	2.8743	2ちゃんねる	-2.4420	幕府	2.9769	恋人	-2.3316
40	地元	2.8073	尊重	-2.4376	回答	2.9227	アクセス	-2.3095
41	誇り	2.7971	わが国	-2.4332	太平洋戦争	2.9032	2ちゃんねる	-2.3042
42	ボツダム	2.7970	由来	-2.3999	参考	2.8633	ユーザー	-2.2605
43	兵器	2.7269	合理	-2.3927	田舎	2.8452	ソーシャル	-2.2491
44	ブランド	2.7096	愛国	-2.3857	所有	2.7499	セカイ	-2.2479
45	製造	2.6577	ネット右翼	-2.3422	部隊	2.7097	依存	-2.2076
46	条約	2.5789	神	-2.3025	スタイル	2.6949	上司	-2.1916
47	單案	2.5739	江戸	-2.2778	木	2.6408	保育園	-2.1766
48	ほかなる	2.5474	封建	-2.2663	大都市	2.5971	ネット右翼	-2.1649
49	志向	2.5379	セカイ	-2.2240	ハウス	2.5915	電話	-2.1546
50	はじめて	2.5240	客観	-2.2225	武士	2.5806	蓄積	-2.1381

4. 多次元尺度構成法による単語の分類と使用頻度

ここでは、出現数上位の200単語（出現数668以上）の単語について、多次元尺度構成法を用いてカテゴリ（クラスター）分けを行い、それぞれの単語が各書籍でどれだけ使われているかを分析した。使用頻度の集計は、コーディングを用いて行った。使用頻度の基準は文とした。一部のカテゴリの単語については、使用頻度上位の単語で使われている関連語（集計基準：段落）に関する共起ネットワークを描画しているので、参考にしてほしい。

カテゴリ1…社会問題

このカテゴリの単語は、「社会」や「時代」、「問題」「日本」などといった、社会問題に関する大まかな言及を示す指標とすることができらるだろう。そのためこのカテゴリの使用頻度が高いほど「評論」としての志向性が強いということになる。このカテゴリの単語の使用頻度は総じて高水準だが、特に高かったのは、山崎雅弘、與那覇潤、白井聡、加藤典洋などといった歴史系、佐々木俊尚、宇野常寛、橘玲などといった思想系であった。逆に低かったのは、中川淳一郎、百田尚樹、堀井憲一郎などといった劣化言説系や、奥田愛基、税所篤快などといった若者運動系が挙げられた。このことから、2010年代の劣化言説系の言説は、社会評論と言うよりは身辺エッセイとして捉えた方がよいのではないか、ということが浮かびあがる。

カテゴリ2…分類不能

「言う」「思う」「する」「なる」などの、どの著作でも頻繁に使われている単語が中心である。どの著作も使用頻度が総じて極めて高水準であるため、敢えて分類する必要はないだろう。

カテゴリ3…日本政府？、外交

こちらのカテゴリも、カテゴリ2と同様、どの著作でも頻繁に使われている単語が中心であるが、中に「政府」「アメリカ」「中国」なども含まれていることから、日本政府及び外交に関する言及を示す指標と見ることができるとは思えない。こちらも、山崎雅弘や與那覇潤、加藤典洋などといった歴史系の著作が上位に入った。下位には、こちらもカテゴリ1と同様、主に劣化言説系や若者論系の著作が入っている。

カテゴリ4…若者・教育・女性

カテゴリ4は、若者や教育、女性に関する言及であると言える。単語も「若者」「子供」「会社」「女性」「仕事」「労働」などといった、比較的わかりやすいものが並ぶ。使用頻度の上位を見ても、谷本真由美、イケダハヤト、古市憲寿、ブレイデイみかなどの若者の労働環境を中心とした言論の流れをくむものや若者論そのものの論客が見られる。逆に下位に位置したのは佐伯啓思や竹田恒泰などの保守系や、加藤典洋などの歴史系であった。若者論を出自としている宮台真司や宇野常寛は、なぜかこの分野の使用頻度は低かった。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

カテゴリー5…日本政治

カテゴリー3が漠然と日本政府のことを示していると考えられるカテゴリーだったのに対し、カテゴリー5は比較的わかりやすく日本政治を示すカテゴリーとなった。単語は「国家」「国民」「憲法」「政権」「政策」などが配置されている。「アメリカ」がカテゴリー3だったのに対し「米」「米国」はカテゴリー5に配置されているのが興味深いところだ。とはいえこちらにも、上位に配置されたのは、古谷経衡や佐々木俊尚などを除けば総じてカテゴリー1、3でも上位に位置していた歴史系であり、下位が若者論系、劣化言説系であることもカテゴリー1、3と同様であった。

カテゴリー6…自己

カテゴリー6は、自己のあり方や社会学に関する単語が多く、この単語の使用頻度が多いほど、(どちらかと言えば理論) 社会学の傾向が強いと言いうことができるだろう。使用頻度の上位に属した著者も、宇野常寛や熊代亨、鈴木謙介、村上裕一などといった、1990年代の宮台真司などを中心とする若者論の社会学の一派の流れをくむ論客が多数配置されている。宮台も高水準であった。一方下位に属しているのは、中川淳一郎や百田尚樹などの劣化言説系や、奥田愛基や税所篤快という若者運動系であった。この2分野は、本来であれば社会学の知見が必要であるが、それが欠如しているのは問題であると言える(劣化言説が社会学の知見を欠いているというのはいまに始まった話ではないが、若者運動が社会学の知見を欠いているのは今後の運動の展開において少なからず問題になると思われる)。社会学者であるはずの古市憲寿は、なぜか下位に属している。

カテゴリー7…メディア

「情報」「メディア」「消費」などが含まれていることから、カテゴリー7はメディアや消費文化に関する言及であると言える。戦後の我が国の消費文化はメディアの進展と軌を一にしてきたので(詳しくは、難波功士「族の系譜学——ユース・サブカルチャーズの戦後史」(青弓社)を参照されたい)、カテゴリーとしての一貫性はあると言える。上位に属しているのは斎藤環や原田曜平といった「ヤンキー」論や、村上裕一、速水健朗、熊代亨などといった若手論壇系であった。香山リカや和田秀樹といった一部の劣化言説も上位に属している。下位に配置されているのは、歴史系や劣化言説系が多かった。

カテゴリー8…文化

このカテゴリーは、(若者論とはまた違った) 世代論や文化論に関する単語が中心であった(なぜか「原発」もここに含まれているが)。このことからこのカテゴリーの単語の使用頻度が高いほど、文化論としての志向性が高いものと言える。実際、上位に属しているのは若者論系がほとんどである。下位は、カテゴリー7と同様、歴史系が中心であった。

カテゴリー9…近代

「近代」「精神」「構造」などの単語が並ぶカテゴリー9は、カテゴリー6とはまた違った(理論) 社会学の傾向を示す指標として使用する

単語のカテゴリー分類

カテゴリー	単語
1	社会,世界,主義,時代,政治,経済,意味,関係,存在,必要,自由,間,可能,日本,問題,結果,行う
2	自分,言葉,人間,人々,生活,前,今,多く,場合,言う,思う,考える,見る,分かる,持つ,出る,知る,呼ぶ,受ける,実際,する,なる,ある,できる,いう,いる,しれる,ない,そう,どう,さらに,人
3	日本人,政府,一つ,理由,状況,責任,自身,状態,考え方,戦争,意識,アメリカ,中国,当時,いま,すべて,現在,書く,生きる,変わる,見える,終わる,なぜ,もう,国,先
4	若者,子供,会社,女性,大学,お金,学生,学校,仕事,労働,デモ,時間,行く,感じる,聞く,働く,増える,来る,多い,ほとんど
5	国家,国民,憲法,歴史,天皇,民主,政権,政策,国際,思想,批判,主張,議論,説明,平和,米,国,米,日,戦後,事実,述べる,示す,もつ
6	自己,現実,文化,個人,価値,物語,システム,現代,市場,集団,変化,機能,組織,重要,全体,ひとつ,言える,与える,求める,得る,変える,新しい,強い,大きい
7	情報,地域,事件,メディア,空間,一般,消費,教育,選挙,行動,様々,生まれる,語る,起こる,特に,もちろん
8	世代,原発,企業,映画,ヤンキー,ネット,家族,場所,テレビ,参加,活動,高い,本
9	近代,精神,構造,中心,制度,目的,運動,共同,成長,以降,失う,力
10	相手,話,東京,使う,作る,入る,違う,読む,出す,悪い,やる,いい,よく,こう,まだ,目,手

「米」「日」は地名。

ることができそうだ。カテゴリー6が若者論や自己の社会学に関する指標であったのに対し、カテゴリー9は近代とは何かという、思想的なものを強く含んでいると言えるだろう。実際、上位に属していたのは佐々木俊尚や小熊英二などといった思想系である。保守系では佐伯啓思も上位に属していた。下位に位置していたのはカテゴリー6と同

「相手」「話」「入る」「いい」「目」など、単語だけ

カテゴリー10…分類不能(ただし劣化言説系の著作で頻繁に使われている) 様、劣化言説系と若者運動系であった。

を見ると、分類は不可能である。しかし、使用頻度では興味深い傾向が見られた。それは、橋本治や中川淳一郎、香山リカ、百田尚樹などといった劣化言説系の著作で使用頻度が高かったことである。単語としての分類は不能でも、使用頻度から、劣化言説への親和性を示す指標として、参考程度にはなるのかもしれない。

第1部 分析手法と全体像

カテゴリ別単語の使用頻度集計 (文)

カテゴリ		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
赤坂真理		20.84%	79.85%	22.63%	10.39%	12.63%	11.15%	5.48%	3.97%	5.36%	13.75%
ブレイディみかこ		26.56%	85.99%	20.42%	32.48%	7.40%	7.44%	7.48%	8.87%	8.35%	20.60%
ちきりん		26.35%	80.17%	21.39%	20.37%	10.40%	15.89%	14.71%	9.91%	5.17%	16.38%
古市憲寿		33.22%	83.42%	21.01%	33.48%	9.21%	11.14%	11.83%	14.12%	6.31%	14.78%
古谷経衛		33.56%	89.20%	24.95%	17.42%	25.98%	16.09%	12.13%	9.78%	7.16%	10.05%
原田曜平		14.80%	76.68%	11.88%	28.48%	1.68%	11.38%	12.06%	21.46%	4.42%	18.72%
橋本浩		33.12%	91.11%	26.58%	15.28%	15.13%	9.95%	13.02%	10.50%	5.98%	23.02%
速水健朗		30.32%	82.36%	20.71%	7.82%	11.25%	14.11%	16.67%	8.28%	6.19%	12.07%
平田オリザ		23.03%	80.83%	21.16%	17.98%	8.86%	14.93%	13.27%	6.49%	7.25%	14.84%
堀有伸		36.19%	88.10%	22.01%	17.51%	11.59%	30.70%	6.72%	6.72%	14.80%	12.27%
堀井憲一郎		19.36%	86.16%	13.37%	12.28%	2.62%	10.64%	7.77%	6.57%	2.91%	17.36%
百田尚樹		17.69%	85.12%	20.15%	14.71%	8.26%	8.74%	5.72%	8.15%	2.39%	19.53%
イケダハヤト		26.88%	88.39%	18.49%	34.38%	3.22%	16.03%	10.85%	13.44%	7.19%	16.40%
加藤典洋		46.97%	81.88%	43.63%	4.42%	48.63%	15.05%	7.07%	3.44%	10.44%	12.36%
香山リカ		30.44%	90.38%	21.40%	19.88%	10.12%	20.90%	14.39%	9.91%	8.10%	20.17%
熊代亨		33.80%	90.08%	19.46%	23.64%	2.72%	34.78%	14.49%	18.00%	10.75%	15.81%
三浦展		32.97%	85.92%	15.60%	17.43%	5.74%	18.92%	26.94%	10.92%	7.35%	15.34%
宮台真司		40.40%	79.58%	19.04%	6.46%	18.53%	26.01%	11.01%	9.69%	12.21%	8.53%
藤谷浩介		24.78%	79.37%	14.50%	17.47%	5.15%	11.53%	9.14%	7.17%	5.12%	15.34%
村上裕一		37.11%	88.13%	18.16%	9.38%	16.56%	24.41%	18.89%	13.07%	10.77%	11.34%
中川淳一郎		14.07%	79.97%	14.62%	16.82%	4.49%	5.27%	5.91%	8.11%	1.74%	22.27%
小熊英二		39.97%	83.94%	25.04%	20.76%	14.93%	17.38%	8.79%	12.10%	17.59%	20.16%
奥田愛基		14.35%	79.06%	16.98%	20.30%	5.39%	6.21%	6.87%	6.92%	2.53%	18.77%
佐伯啓思		39.67%	81.55%	28.98%	3.57%	23.66%	11.34%	4.51%	1.83%	13.56%	10.68%
祝所篤快		17.26%	76.45%	19.06%	16.52%	5.97%	6.93%	8.28%	9.05%	3.69%	14.60%
斎藤環		20.84%	82.50%	16.40%	9.64%	7.56%	18.82%	8.51%	25.37%	4.38%	8.48%
佐々木俊尚		45.13%	84.62%	29.75%	9.57%	20.40%	19.22%	10.44%	8.30%	19.35%	8.21%
白井聡		48.86%	91.87%	34.15%	4.72%	47.56%	16.48%	7.67%	3.37%	9.53%	6.53%
想田和弘		25.29%	83.31%	18.49%	9.65%	14.40%	11.05%	10.31%	17.43%	6.04%	16.24%
鈴木謙介		39.76%	91.66%	20.88%	10.69%	12.19%	30.97%	36.86%	12.59%	10.74%	14.39%
橋玲		42.22%	84.57%	31.07%	11.91%	18.72%	23.74%	11.61%	8.59%	13.00%	9.48%
高橋源一郎		25.05%	79.33%	27.28%	15.90%	12.33%	10.68%	9.18%	11.26%	6.49%	15.29%
武田砂鉄		14.76%	86.28%	13.79%	12.55%	6.94%	12.07%	6.65%	7.43%	3.67%	17.52%
竹田恒泰		45.75%	89.43%	43.22%	7.03%	35.95%	12.41%	9.75%	3.86%	10.44%	8.69%
谷本真由美		36.72%	88.33%	29.88%	34.63%	5.91%	12.45%	11.13%	12.87%	5.72%	19.06%
宇野常寛		43.16%	88.55%	17.98%	6.01%	13.45%	40.66%	12.32%	7.72%	16.94%	6.56%
和田秀樹		28.28%	88.61%	30.39%	19.64%	7.68%	17.27%	13.76%	9.02%	5.76%	14.59%
渡部昇一		32.69%	90.22%	24.58%	9.05%	17.60%	11.37%	6.08%	2.53%	6.44%	14.48%
山崎雅弘		60.99%	90.61%	46.30%	6.34%	55.79%	28.52%	15.59%	4.15%	15.50%	11.11%
與那覇潤		57.93%	86.01%	45.94%	13.54%	33.36%	21.12%	15.24%	8.16%	15.49%	20.24%

カテゴリ

上位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	山崎雅弘	白井聡	山崎雅弘	谷本真由美	山崎雅弘	宇野常寛	鈴木謙介	斎藤環	佐々木俊尚	橋本浩
2	與那覇潤	鈴木謙介	與那覇潤	イケダハヤト	加藤典洋	熊代亨	三浦展	原田曜平	小熊英二	中川淳一郎
3	白井聡	橋本浩	加藤典洋	古市憲寿	白井聡	鈴木謙介	村上裕一	熊代亨	宇野常寛	ブレイディみかこ
4	加藤典洋	山崎雅弘	竹田恒泰	竹田恒泰	竹田恒泰	堀有伸	速水健朗	想田和弘	山崎雅弘	與那覇潤
5	竹田恒泰	香山リカ	白井聡	原田曜平	與那覇潤	山崎雅弘	山崎雅弘	古市憲寿	與那覇潤	香山リカ
6	佐々木俊尚	渡部昇一	橋玲	熊代亨	古谷経衛	宮台真司	與那覇潤	イケダハヤト	堀有伸	小熊英二
7	宇野常寛	熊代亨	和田秀樹	小熊英二	佐伯啓思	ちきりん	村上裕一	村上裕一	佐伯啓思	百田尚樹
8	橋玲	竹田恒泰	谷本真由美	ちきりん	佐々木俊尚	橋玲	熊代亨	谷本真由美	橋玲	谷本真由美
9	宮台真司	古谷経衛	佐々木俊尚	奥田愛基	橋玲	與那覇潤	香山リカ	鈴木謙介	宮台真司	奥田愛基
10	小熊英二	和田秀樹	佐伯啓思	香山リカ	宮台真司	香山リカ	和田秀樹	小熊英二	村上裕一	原田曜平

カテゴリ

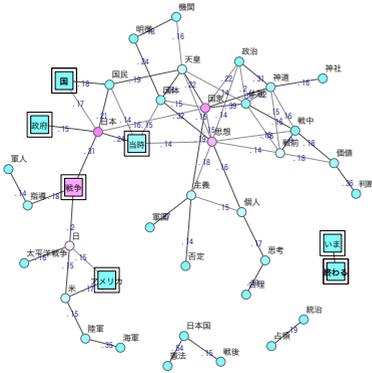
下位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	中川淳一郎	祝所篤快	原田曜平	佐伯啓思	原田曜平	中川淳一郎	佐伯啓思	佐伯啓思	中川淳一郎	白井聡
2	奥田愛基	原田曜平	堀井憲一郎	加藤典洋	堀井憲一郎	奥田愛基	赤坂真理	渡部昇一	百田尚樹	宇野常寛
3	武田砂鉄	奥田愛基	武田砂鉄	白井聡	熊代亨	祝所篤快	百田尚樹	白井聡	奥田愛基	佐々木俊尚
4	原田曜平	高橋源一郎	藤谷浩介	宇野常寛	イケダハヤト	中川淳一郎	加藤典洋	堀井憲一郎	斎藤環	橋玲
5	祝所篤快	藤谷浩介	中川淳一郎	山崎雅弘	中川淳一郎	百田尚樹	渡部昇一	竹田恒泰	武田砂鉄	宮台真司
6	百田尚樹	宮台真司	三浦展	宮台真司	藤谷浩介	橋本浩	武田砂鉄	赤坂真理	祝所篤快	竹田恒泰
7	堀井憲一郎	赤坂真理	斎藤環	竹田恒泰	奥田愛基	堀有伸	山崎雅弘	斎藤環	斎藤環	橋玲
8	斎藤環	中川淳一郎	奥田愛基	速水健朗	三浦展	高橋源一郎	奥田愛基	平田オリザ	原田曜平	古谷経衛
9	赤坂真理	ちきりん	宇野常寛	渡部昇一	谷本真由美	想田和弘	加藤典洋	堀井憲一郎	藤谷浩介	佐伯啓思
10	平田オリザ	平田オリザ	村上裕一	村上裕一	祝所篤快	古市憲寿	ブレイディみかこ	堀有伸	ちきりん	山崎雅弘

間違いだらけの論客選び

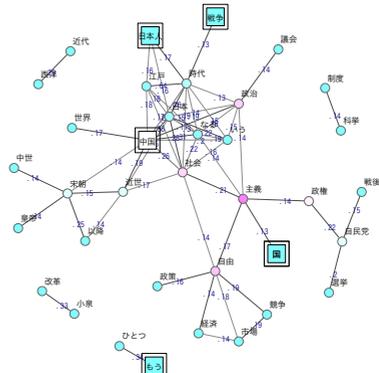
2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

カテゴリー 3 単語を含む段落の共起ネットワーク

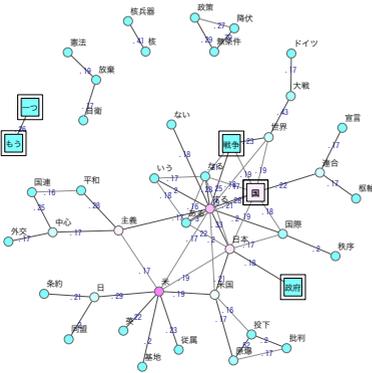
山崎雅弘



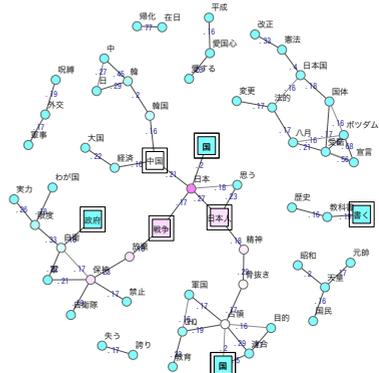
與那覇潤



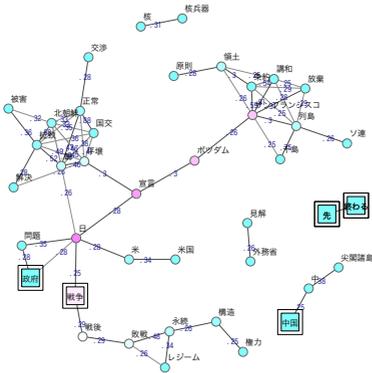
加藤典洋



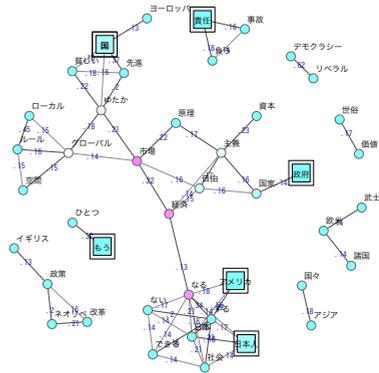
竹田恒泰



白井聡



橘玲



間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

第2部 間違いだらけの論客選び

この部では、分析対象とした40冊の著作について、それぞれパラメータを紹介していきます。対応分析は出現数96以上の2,020単語、共起ネットワークは全ての自立語を対象としています（集計は段落を基準としている）。それぞれの著作について、千字程度のレビューも添えていますので、参考に見てください。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

所属グループ

グループ2

	正/負	得点	順位
主成分1	歴史/生活	0.0396	12
主成分2	文学・サブカル/社会運動	-0.1844	16
主成分3	グローバル経済/若者	-0.2919	26
主成分4	表現・運動/心理・私生活	0.7659	11
主成分5	戦後史/日本史	-0.1055	23
主成分6	若手論壇/人間関係	-0.0666	19
主成分7	歴史?/若者文化	0.2172	16
主成分8	若者の心性/インターネット	0.4223	13

関連語

順位	単語	Jaccard係数
1	言う	0.0417
2	思う	0.0348
3	憲法	0.0316
4	戦争	0.0286
5	日本人	0.0282
6	アメリカ	0.0275
7	分かる	0.0275
8	今	0.0269
9	そう	0.0251
10	天皇	0.0236

カテゴリー単語使用頻度(%)

特徴	頻度	順位
1 社会問題	20.84%	32
2 (なし)	79.85%	34
3 日本政府	22.63%	16
4 若者・女性	10.39%	27
5 日本政治	12.63%	17
6 自己	11.15%	30
7 メディア	5.48%	39
8 文化	3.97%	35
9 近代	5.36%	30
10 (劣化言説?)	13.75%	26

歴史の専門家でも研究者でもない作家が自身の経験をもとに戦後史について述べるといふもの。対応分析のパラメータでは目立って特徴的なものではなく、本書で分析する言説としては平均的なものと言うことができる。代表的な関連語に出ている「言う」「思う」「分かる」などからも、本書が主観的な視座を重視しているということが裏付けられる。他方で「日本人」「アメリカ」「天皇」などといった現代史や現代社会に関する語句も関連語として挙がっており、ここにも著者にとつての主観的な日本社会、日本人像を描き出すという特徴を見て取ることができる。

共起ネットワークを見ると、こちらも現代社会に対して(統計的に裏付けされていないことも少なくないが)何らかの感想を述べるといふものが見られる。例えば「ガキ」「大将」「空き地」「ジャイアン」などが見られる島は、「ドラーえもん」をもとに現代社会や子供、若者の変貌を述べた部分であり、それは「風景」や「ちがう」などの語が所属している島にも言うことができる。

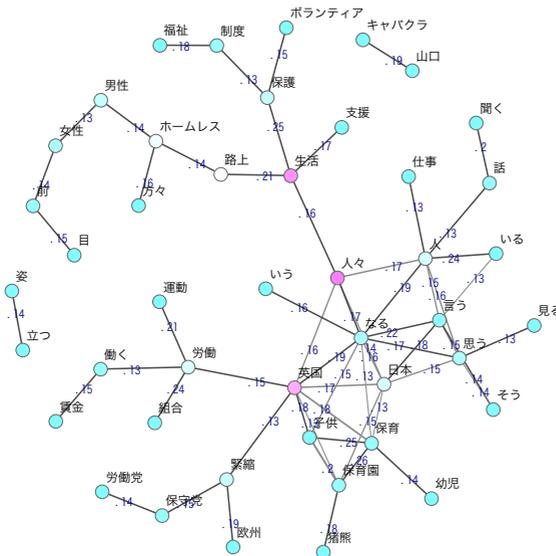
しかし共起ネットワークで重視すべきは、多くの語句が連なっている大きな島であろう。「自民党」「戦後」「アメリカ」などの単語が多く所属しているこの島においては、自民党政治の本質、管理教育、アメリカの占領政策や安保闘争、そして憲法などといったトピックが、単語の共通性という量的指標によって有機的に繋がっていく様はほかの書籍ではなかなか見られないものである。

そのため、本書は2011年以降の我が国において流通している「日本論」「日本人論」の平均的な像を示していると言うことができる。我が国の「批評」などを考える上で、ある意味では逃せない一冊と言いうことができるだろう。

主成分得点



共起ネットワーク



『This is Japan 英国保育士が見た日本』 ブレイクデイみかこ

太田出版
2016/8/17 初版

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

所属グループ

グループ2

	正/負	得点	順位
主成分1	歴史/生活	-0.8912	34
主成分2	文学・サブカル/社会運動	-0.7612	39
主成分3	グローバル経済/若者	0.4444	13
主成分4	表現・運動/心理・私生活	1.1370	6
主成分5	戦後史/日本史	0.4261	7
主成分6	若手論壇/人間関係	-0.6985	33
主成分7	歴史?/若者文化	0.5503	13
主成分8	若者の心性/インターネット	0.9354	6

関連語

順位	単語	Jaccard係数
1	英国	0.1412
2	保育	0.1083
3	保育園	0.0779
4	子供	0.0596
5	貧困	0.0578
6	労働	0.0561
7	言う	0.0524
8	人々	0.0511
9	中村	0.0502
10	おこなう	0.0482

カテゴリー単語使用頻度(文)

	特徴	頻度	順位
1	社会問題	26.56%	26
2	(なし)	85.99%	19
3	日本政府	20.42%	24
4	若者、女性	32.48%	4
5	日本政治	7.40%	29
6	自己	7.44%	37
7	メディア	7.48%	31
8	文化	8.87%	20
9	近代	8.35%	16
10	(劣化言説?)	20.80%	3

イギリス在住の保育士が、主に子育てを中心とした日本の現状について豊富な協力者と取材の下で論ずるもの。やや左派的な傾向は見られるものの、緊縮的な財政政策や社会保障政策に対して手厳しい批判をしていたり、イギリスの政策との比較が行われていたり、読み応えは十分である。

パラメータを見ると、第1〜6主成分では、第1、2、6主成分が目立って低い値を示しているのが見られた。第3、5主成分は概ね平均的であった。第1主成分の負方向は生活、第2主成分の負方向は社会運動、第6主成分の負方向は人間関係となっており、サブカルチャーや若い世代の心性を重視するような「若手論壇」的なものとは一線を画す社会論のあり方として読まれるべきだろう。ただ、第4主成分も、際立って大きいわけではないが正の方向を示しており、同様の方向を示すものとしては劣化言説系の書籍と、若者運動系の書籍の2種類があるため、恐らく同書でも好意的に採り上げられている若者運動を好意的に採り上げる方向性からこの傾向が見られるようになっていっているのだろう。

関連語を見ると、「英国」「保育」「保育園」などといった、イギリスと日本の保育政策の比較という同書の狙いに沿った方向性になっていると言える。また「貧困」や「労働」も関連語として挙がっており、労働問題に焦点を当てた日本社会論の一つの形として読むことが可能と言える。

最後に単語とその関連線を見ると、まずカテゴリー別の単語の使用頻度としては、カテゴリー4の子供や若者、女性に関する単語の頻度が多くなっているのも、青少年、女性問題に焦点を当てた日本社会論としての同書の特徴を決定づけていると言えるだろう。ただ、劣化言説系の書籍で頻繁に用いられている、カテゴリー10の単語も多く使われているのが気になるところだ。共起ネットワークでは労働や福祉、イギリスの政策に関する単語が大きな島に所属している。「生活」という単語が「路上」「支援」「保護」(生活保護のことと考えられる)という言葉を紹介している。

本書は2000年代後半から2010年代にかけての労働や福祉に関する問題の一つの結節点として読まれるべきだろう。惜しむらくは、本書の著者が日本社会に長い間生きてきた若い人ではないということだろうか……。

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

所属グループ

グループ3

	正/負	得点	順位
主成分1	歴史/生活	-0.6539	29
主成分2	文学・サブカル/社会運動	-0.4780	30
主成分3	グローバル経済/若者	0.4676	10
主成分4	表現・運動/心理・私生活	-0.1738	27
主成分5	戦後史/日本史	0.5218	6
主成分6	若手論壇/人間関係	-0.3118	23
主成分7	歴史?/若者文化	0.9467	7
主成分8	若者の心性/インターネット	-1.5055	38

関連語

順位	単語	Jaccard係数
1	図	0.0980
2	思考	0.0672
3	グラフ	0.0633
4	情報	0.0563
5	ちきりん	0.0552
6	出生	0.0495
7	考える	0.0491
8	顔	0.0446
9	知識	0.0426
10	自殺	0.0401

カテゴリー単語使用頻度(文)

	特徴	頻度	順位
1	社会問題	26.35%	27
2	(なし)	80.17%	32
3	日本政府	21.39%	19
4	若者・女性	20.37%	8
5	日本政治	10.40%	22
6	自己	15.89%	19
7	メディア	14.71%	7
8	文化	9.91%	14
9	近代	5.17%	31
10	(劣化言説?)	16.38%	14

「自分のアタマ(なぜ片仮名なのか)」で考えることを推奨している、自己啓発スタイルの日本社会論ということが出来る。後で登場する谷本真由美と同様、ブロガーやツイッターから出版メディアで活躍する論客に成り上がった存在の一人である。ある外資系コンサルティング会社の元人事担当者という噂もあるが、ここでは触れないでおこう。

主成分得点を見ると、第1, 2, 6主成分が低いことは前ページのブレイデューミかことおなじ傾向だが、ブレイデューミと違うのは第4主成分がゼロ点近いということである。第4主成分は若者運動もしくは劣化言説への親和性を示す指標であるが、本書はそのどちらにも親和的でないということが言える。他方で第4主成分をマイナスにするような、心理や私生活を語る単語もそれほど使われていない。また意外にも歴史に関する言及が多いようで、プラス方向が戦後史を示す第5主成分は全体で6位、プラス方向が歴史を示す第7主成分が7位となっている。

関連語として目立つのは「図」「思考」「グラフ」などといった、同書で繰り返し主張されている「常識に騙されるな、グラフなどを使って考える」という主張を示していると言える。なお「ちきりん」というのは同書の中で著者が一人称で使っているものが多い。

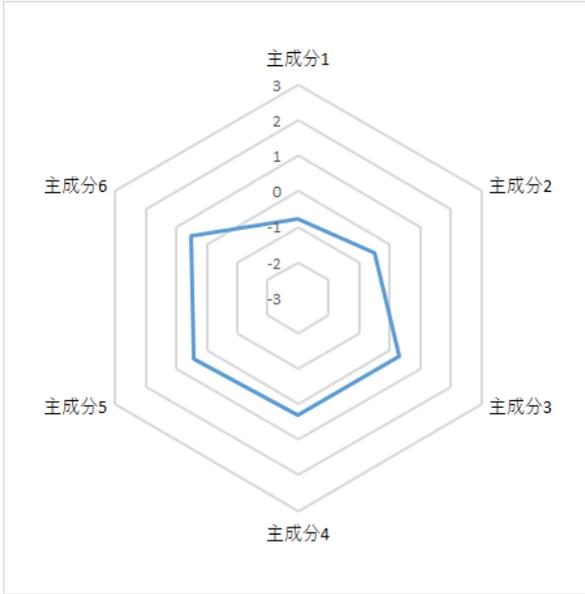
単語の使用頻度を見ると、古市憲寿やブレイデューミかこほどではないにせよ若者や女性に関する言及が多く、文ベースで2割、全体では8位になっている。もう一つ言及が多いのはカテゴリー7のメディアで、全体で7番目の多さである。

共起ネットワークでは、「思考」「表現」「グラフ」「資料」などといった情報の処理に関する項目が島を形成しており、それ以外は個々で採り上げられているトピックがバラバラに配置されている様子である。そのため全体的な傾向を掴むのが難点だ。

もう一つ。これは本書の分析とは関係ないことなのだが、本書の著者にとって「自分のアタマで考える」ということはなんなのかということは何も直されるべきだと思ふ。著者のブログやツイッターなどを見てみると、「自分で考える」としておきながら、新自由主義的な方向に誘導している嫌いがある。

その点どうなのでしょう、伊賀奈代さん。

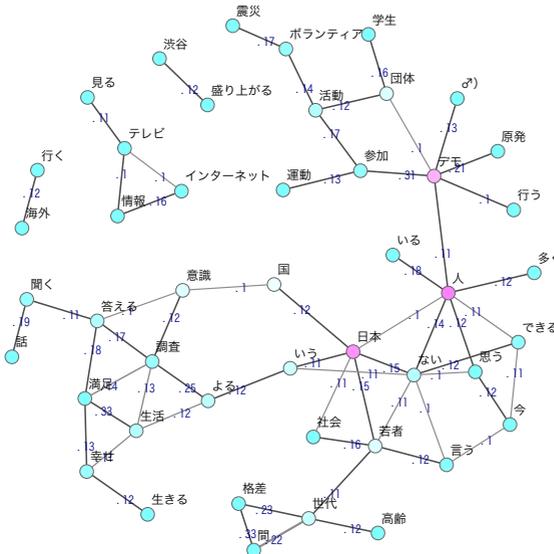
主成分得点



古市憲寿

『絶望の国の幸福な若者たち』

共起ネットワーク



講談社
2011/6/21 初版

間違いだらけの論客選び

2010年代「日本社会論」の計量テキスト分析

所属グループ

	正/負	得点	順位
主成分1	歴史/生活	-0.7663	31
主成分2	文学・サブカル/社会運動	-0.4897	31
主成分3	グローバル経済/若者	0.2914	16
主成分4	表現・運動/心理・私生活	0.2951	18
主成分5	戦後史/日本史	0.4098	9
主成分6	若手論壇/人間関係	0.5102	8
主成分7	歴史?/若者文化	-0.0513	23
主成分8	若者の心性/インターネット	-0.2055	25

グループ3

関連語

順位	単語	Jaccard係数
1	若者	0.1881
2	今	0.0524
3	世代	0.0442
4	人	0.0428
5	デモ	0.0417
6	幸せ	0.0411
7	知れる	0.0396
8	いる	0.0393
9	日本	0.0383
10	社会	0.0374

カテゴリー単語使用頻度(文)

	特徴	頻度	順位
1	社会問題	33.22%	18
2	(なし)	83.42%	25
3	日本政府	21.01%	21
4	若者・女性	33.48%	3
5	日本政治	9.21%	24
6	自己	11.14%	31
7	メディア	11.83%	16
8	文化	14.12%	5
9	近代	6.31%	24
10	(劣化言説?)	14.78%	21

本書によってそれまでの「かわいそうな若者」論、「苦しんでいる若者」論とは一線を画す「幸福な若者」像を提示し、若者論のスターダムにのし上がった著者の出世作。同じ著者だと「だから日本はズレている」(新潮新書)のほうが日本社会論的な傾向が強いのだが、本書の目的に東日本大震災以降の我が国の「日本人論」「日本社会論」における若者論の位置付けというものも含んでいるため、我が国の若者論に大きな影響を及ぼした本書を分析の対象とすることを「了承願したい」。

主成分得点を見ると、第1、2主成分がマイナスとなっており、それ以外はゼロ点に近い。第1主成分の負方向は生活、第2主成分の負方向は社会運動を示しており、それは震災後における「若者」のあり方として著者が採り上げているものの像に一致する。他方で、負方向が若者論への志向性を示す第3主成分の値はゼロ点に近かった。そのため、本書は若者論と言うよりは一つの日本社会論として提示されたものとして読むのが適切なかもしれない。ただ、数値こそゼロ点にやや近いものの、正方向が「若手論壇」への親和性を示す第6主成分が全体で8位と比較的高めであり、若者論や文化論を中心とした「若手論壇」の言説としての傾向を見ることもできる。

とはいえカテゴリー別の単語の使用頻度を見てみると、女性や若者を示すカテゴリー4の使用頻度は全体で3位と高く、若者論としての性格も強いことが窺える。関連語にも「若者」「世代」がリストアップされた。また文化を示すカテゴリー8の単語の使用頻度も全体では5位と高めた。逆に、意外にもカテゴリー16の自己アイデンティティを示す単語への言及は少ない。

同書は若者論の社会学(それこそ「宮台学派」的な)流れをくむ若者論と言える一方で、自己アイデンティティへの言及が少なく、逆に社会運動への言及が多いなど、既存の流れとは異なる傾向も見られる。震災以降の若者論のひとつの形として、本書は読む価値はあると言える——その主張の審議や政策などへの悪影響はとりあえず措いておこう。